

平成30年度
さが農商工連携応援基金事業助成金
事業応募書類

平成 年 月 日

連携体の代表者となる方を記載してください。

応募者 (連携体構成員のうち代表者)

住所 佐賀市〇〇町〇〇番〇〇号

氏名 代表取締役〇〇〇〇 印

(添付資料)

- ・ Aシート 連携体構成員の概要
- ・ Bシート 事業計画 (ビジネスプラン)
- ・ Cシート 助成事業実施計画

※記入にあたっては、「さが農商工連携応援基金事業助成金公募要領」を参考にしてください。

【個人情報の取扱いに関するご案内】

この応募用紙の提出に伴い収集した個人情報は、さが農商工連携応援基金事業事務のためにのみ使用し、それ以外の目的に使用することはありません。

Aシート 連携体構成員の概要

【開発テーマ】

「 県産かんきつを活用したリキュールの開発 」

注) 開発要素の内容を表現する適切な名称を1行程度で記載してください。

【連携体構成員】(中小企業者・農林漁業者・中小企業者以外の者) ※該当するものに○

ふりがな 名称	〇〇〇〇かぶしきがいしゃ 〇〇〇〇株式会社
所在地	佐賀市〇〇町〇〇番〇〇号
代表者職名	代表取締役
ふりがな 代表者氏名	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
電話番号	0952-△△-xxxx
FAX番号	0952-△△-□□□□
E-mail	xxx@□□□.jp
設立年月日	昭和〇〇年〇〇月〇〇日
業種	酒類製造業
事業内容	清酒、焼酎の製造
本事業における 役割及び提供する 経営資源	(役割) 地元産かんきつを活用した新規リキュールの製造及び販売 方法の確立 (経営資源) 醸造技術及び販売ルートを活用
資本金の額 (単位:円)	10,000千円
常時使用する従 業員の数 (単位:人)	20人
連絡担当者 (代表者と異なる 場合)	商品開発部長 △△ △△ (TEL 0952-△△-xxxx○ (直通))

半角英数字にて記載。英字と数字の区別が付くように記載してください(以下同様。)

本事業での役割及び提供する経営資源(資産、技術、ノウハウ、知的財産、販路、人脈など。ただし、お金は不可。)を簡潔に記載してください(以下同様。)

注) 会社概要パンフレットがある場合は添付してください。

注) 連携体構成員それぞれについて作成してください。

【連携体構成員】（中小企業者（農林漁業者）・中小企業者以外の者） ※該当するものに○

ふりがな 名称	□□□□のうえん □□□□農園
所在地	佐賀県唐津市〇〇町〇〇 ×××番地
代表者職名	代表
ふりがな 代表者氏名	□□ □□ □□ □□
電話番号	0955-〇〇-〇〇〇〇
FAX番号	0955-〇〇-△△△△
E-mail	×××@△△△.jp
設立年月日	
業種	農業（個人）
事業内容	施設園芸
本事業における 役割及び提供する 経営資源	（役割）リキュールに適したかんきつの品質確保の方法の研究及び 販売方法の確立 （経営資源）かんきつの栽培技術、収穫、管理、出荷方法及び販売 ルート
資本金の額 （単位：円）	—
常時使用する従 業員の数 （単位：人）	5人
連絡担当者 （代表者と異なる 場合）	—

【その他】

今回の事業テーマに関連し、過去に国、県及びその他の公益法人、特殊法人等から助成金、補助金等の交付を受けたことがありますか（連携体として助成金等の交付を受けた場合、連携体構成員が単独で助成金等の交付を受けた場合のいずれも含む。）。

■ ある □ ない

注) 該当するものにチェックしてください。

交付を受けたことがある場合記載してください。

年度	平成20年度
助成金等名	際立つ佐賀・たくましい佐賀企業づくり支援事業費補助金
交付元	佐賀県
助成金等を受けた者の名称	
テーマ	県産みかんを活用した新規リキュールの開発
助成金等の額 (単位：円)	2,500,000円

【添付書類】

連携体の構成員すべてに関して、次の書類を添付すること（証明書は発行から3カ月以内のものに限る。写し可）

連携体構成員が法人の場合：

- ① 現在事項全部証明書
- ② 直近の法人税申告書（税務署の受領印のあるものに限ります。）
- ③ 過去3ヶ年の事業報告書及び決算書
- ④ 直近の事業税完納証明書

連携体構成員が個人事業主の場合：

- ① 直近の決算書又は決算書に代わるもの（例：所得税申告書※税務署の受領印のあるものに限ります。）
- ② 直近の事業税完納証明書
- ③ 開業届（税務署の受領印のあるものに限ります。）

Bシート 事業計画（ビジネスプラン）

- 1 事業概要（事業化をしたい動機や背景及びこれまでの経緯・進捗状況を踏まえて、何を開発するのか、誰にどうやって販売するのか簡潔に記載）

〇〇〇〇株式会社は、昭和〇〇年の創業以降、地元産の米と水にこだわった清酒を主力商品として他に焼酎などの製造・販売を行っている。しかしながら近年、日本酒に関しては若者の日本酒離れや「発泡酒」「第3のビール」の消費拡大などの要因により、売上が低迷している。

一方、□□□□農園は、うんしゅうみかんの露地・ハウス栽培を主に行っており、平成〇〇年からは佐賀県が育種した「佐賀果試 34 号」の生産も行っている。「佐賀果試 34 号」の市場評価は非常に高いものではあるが、毎年、かんきつのシーズンが終わりにかかると、品質が良くても卸値が伸びず、売上も頭打ちとなっている状況である。

このため、〇〇〇〇株式会社においては、新たな顧客層を取り込むための新商品の開発を、□□□□農園は、一次産品としての価値が下がる時期において付加価値を高めるための二次加工品としての活用を、それぞれ模索しているなかで、地元ブランドである「佐賀果試 34 号」を活用したリキュールの開発を思いついた〇〇〇〇株式会社が生産農家を探していたところ、□□□□農園との利害関係が一致したことにより、平成〇〇年〇月より新たな商品の開発に取り組んでいる。

新商品（かんきつリキュール）が完成した際には、これまで〇〇〇〇株式会社の主たる顧客層ではなかった女性や若い世代をターゲットに、〇〇〇〇株式会社及び□□□□農園がこれまで培ってきた販売ルートを活用した販売に加え、県外見本市出展により新たな販路を開拓していくことにしている。

現在、第 1 段階目の試作品が完成したが、原材料として提供するかんきつの品質や、漬け込みの期間といった製造方法に改良の余地があり、引き続き市場化に向けた研究開発を行うものである。

- 2 新規性・独創性（開発する商品・技術等の特徴について、従来のもものと比較した新規性・独創性という切り口で記載）

地元の特産である「佐賀果試 34 号」を用いたリキュール類は他になく、また、今回、多くの果実リキュールで用いられている焼酎ではなく、〇〇〇〇会社が主力としている清酒を用いてリキュールを開発する予定であり、従来製品とは差別化された独創性を有しているといえる。

また、「佐賀果試 34 号」はこれまでほとんど青果物として出荷されているが、今回、佐賀果試 34 号の特徴を十分に生かしたリキュールとするための栽培・収穫方法の検討を行うことは、これまでの当かんきつに関しては新たな試みであるといえる。

注) 開発する商品等の完成予定イメージ及び設計図面等を添付してください。

注) 専門用語、業界用語を用いる場合は説明を付けてください。

3 市場性 (ターゲット (誰が、どのような場面でどう使うのか)、市場規模、価格、競合商品等との差別化戦略について具体的に記載)

オンラインリサーチの「アイシェア リサーチ」が 2009 年 1 月に 20~40 代の男女を中心に行った「宅飲みに関する意識調査」によると、昨今の不況下で、居酒屋などではなく自宅で酒を楽しむ「宅飲み」が増えており、また、誰かと一緒に飲むときの酒として、「梅酒などの果実酒 (ワインは除く)」がビール (75.7%) に続く数字 (43.8%) となっている。また、これを男女別で見ると、女性の「果実酒」の回答は 54.7% で、ビール (59.1%) に肉薄する数字となっている。一方、年代別にみると、20 代で「果実酒」と回答した割合は 76.3% で、ビールを抑えてこの年代の 1 位となっている。

したがって、女性や 20 代の若者をターゲットに、自宅や知人宅で楽しめる酒をコンセプトに商品を開発することで市場性は見出すことができる。

また、国税庁が 2009 年 3 月に発表した 2008 年の「酒類課税出荷数量」によると、清酒、ビール、ウイスキーなどが前年割れとなるなか、リキュール類は前年比 22.1% 増、前々年比 60.1% 増となっており、今後更なる市場規模の拡大が期待される。

昨今は「第 3 のビール」など低価格路線のものに人気が集まっているが、「佐賀果試 34 号」というブランドイメージを低下させないためにも、また、生産者である□□□□農園の売上の向上を図るためにも、高品質・高価格路線を考えている。

多くのリキュールで用いられている焼酎ではなく日本酒を用いること、佐賀果試 34 号の特徴を十分に生かした商品を生み出すことにより差別化は図られると考える。

4 販売戦略、販売方法 (できるだけ具体的に記載)

〇〇〇〇株式会社の経営資源である販売ルート—酒販店、百貨店、大型ショッピングセンター—を活用するほか、□□□□農園が農産物を納めている「道の駅〇〇」「農産物販売所」などでも販売を行う予定である。

また、インターネットを活用した販売についても、専門家の意見等を踏まえ検討することとしている。

リキュール用に使うことができる「佐賀果試 34 号」の生産時期が限られていることもあり、期間限定などのプレミアムを付して販売することも検討する。

5 商品の生産体制

□□□□農園においては、新規リキュール原材料用の「佐賀果試 34 号」の栽培体制（安定供給方法）を今回の研究で検討、構築し、それに基づいて均一化された品質の「佐賀果試 34 号」を、当面は、毎年 1 月下旬から 2 月にかけて出荷される全量のうち約 80% に当たる量を〇〇〇〇株式会社に納める。

〇〇〇〇株式会社は、納入された「佐賀果試 34 号」を〇か月間清酒に漬け込み、リキュールを完成させる。〇〇〇〇株式会社においては、新規リキュール製造のための設備を整備するとともに、そのための人員を配置する。

6 スケジュール（研究開発から事業化（＝開発した商品等の販売等を開始すること）までを記載）

年 月	行動予定
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（〇〇〇〇株式会社、□□□□農園） 新商品の改良についての打合せ
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（□□□□農園） 新商品に求められる品質を達成するため、専門家の意見を聞きながら栽培方法の検討
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（〇〇〇〇株式会社） 試作品の改良に向けた研究（専門家の助言・指導）
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（□□□□農園） 栽培方法の確立、収穫方法の検討・習得（専門家の助言・指導）
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（〇〇〇〇株式会社、□□□□農園） 試作品（改良版）の完成、品質の確認
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（〇〇〇〇株式会社、□□□□農園） 試飲用商品製造、マーケティング調査
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（〇〇〇〇株式会社） 東京で開催される農林水産物及び農産加工品等の見本市「ふるさと食品全国フェア」に出展
〇〇年〇月 ～ 〇〇年〇月	（〇〇〇〇株式会社、□□□□農園） 見本市での反応を踏まえた商品の最終的な改良、商品の販売開始

7 事業化による売上・利益等の見通し

【過去3期分の売上状況】

連携体構成員	平成〇〇年 3月期	平成〇〇年 3月期	平成〇〇年 3月期 (直前)
〇〇〇〇株式会社	300,000千円	280,000千円	250,000千円
□□□□農園	25,000千円	22,000千円	22,000千円

※ □□□□農園（個人事業主）の決算期は12月

構成員ごとに決算期が異なるときは、注書きを付してください。

【本事業における成果目標】

(中小企業者)

1年後に事業化を達成する、事業化達成後5年後の売上高5%増加。

注) 〇年後に事業化を達成する、事業化達成後〇年度の売上高が〇%増加を目標とすることなどを記載してください。事業化については、3年以内を目標としてください。

(農林漁業者)

1年後に事業化を達成する、事業化達成後5年後の「佐賀果試34号」に関する売上高3%増加。

注) 〇年後に事業化を達成する、事業化達成後〇年後に当該農林水産物の売上高を〇%増加させる、あるいは事業化達成後〇年後に付加価値額を〇%増加させることなどを記載してください。事業化については、3年以内を目標としてください。

※ 付加価値額＝営業利益＋人件費＋減価償却費

※ 人件費には、短時間労働者、派遣労働者に対する費用を含む。

※ 減価償却費には、リース・レンタル費用を含む。

【今後の売上・利益見通し】

	連携体構成員	計画等
(事業化達成後) 3年後	〇〇〇〇株式会社	新商品売上高7,500千円、売上高3%増
	□□□□農園	佐賀果試34号の売上高3%増
(事業化達成後) 5年後	〇〇〇〇株式会社	新商品売上高12,500千円、売上高5%増
	□□□□農園	佐賀果試34号の売上高3%増

注1) 本事業の成果を踏まえた見通しを記載してください。

注2) 連携体構成員それぞれについて記載してください。

8 事業資金

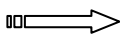
【資金需要】

	助成期間	助成期間終了後(注)	合 計
助成事業に要する経費 (①+②+③+④)	5,831 千円	1,000 千円	6,831 千円
うち助成 対象経費	5,553 千円		

(助成期間終了後の事業内容)

見本市出展後の商品の最終的な改良

【調達方法】

	助成期間	助成期間終了後(注)	合 計
① 自己資金	2,130 千円	1,000 千円	3,130 千円
② 借入金	千円	千円	千円
③ その他	千円	千円	千円
④ 助成金	3,701 千円		3,701 千円

注) 助成期間終了後 = 助成終了後から事業化(3年以内)までに発生する事業費、
調達方法を記載

Cシート 助成事業実施計画

1 研究開発課題（本助成金を活用して解決しようとする課題について記載）

（〇〇〇〇株式会社）

「佐賀果試 34 号」は、酸味が少なく、糖度が高いことが特徴であり、柑橘の中では早期出荷が可能な品種である。新規リキュールの開発にあたっては、「佐賀果試 34 号」のこうした特徴を十分に生かすとともに、すっきりとした飲み口となるようなものにするための製造工程の確立（例：糖度〇%、漬け込み期間〇か月など）が求められる。

（□□□□農園）

リキュールに適した品質がどのようなものなのかを検討し、栽培方法を確立する必要がある（例：農薬の投与量〇〇以下など）。また、これまでは主に青果物として出荷してきたが、リキュール用としてふさわしい収穫時期や方法を検討し、確立することも求められる。

注）数値目標を含めて記載してください。

2 実施計画

【実施方法】

実施項目	実施方法 (具体的な課題とその解決方法、手順を記載)
商品改良の検討	・ どのような改良が必要か → 必要に応じて市場調査や専門家意見を交え、連携体での協議による決定プロセス
製造工程の確立	・ かんきつの漬け込み期間、味（砂糖など）の調整をどうするか → □□□□農園からの原材料提供を受け、専門家の指導・助言を踏まえての試作品製造を繰り返すことでノウハウを習得
栽培・収穫方法の検討	・ リキュールに求められる「佐賀果試 34 号」品質の確保 → 専門家の助言のもと、温度管理や農薬投与量、完熟状態の見極めなどを検討、試験的な栽培・収穫を通じてノウハウを習得
販路の開拓	・ 新たなコンセプトの商品をどのように市場展開・開拓していくか → 双方が培ってきた販売ルートを活用するほか、県外（首都圏）での販路拡大を見越して、マーケティング調査及び見本市（〇〇年〇〇月に東京ビッグサイトにて開催される「ふるさと食品全国フェア」（(財)食品産業センター主催）への出展を実施

注）必要に応じ仕様書、図面等を添付してください。

【スケジュール】

実施項目	○年	○年	○年	○年	○年	○年	○年	○年	○年	○年	○年	○年	
	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	
商品改良の 検討	→											→	
製造工程の 確立		→											
栽培・収穫 方法の検討		→											
見本市への 出展			→										

注) 項目毎の実施期間を矢印にて示してください。

3 新商品・新技術・新役務の開発に関して

【人員・役割分担】

連携体構成員等	職名	担当者名	開発における役割
〇〇〇〇株式会社	開発部主任	〇〇▽▽	リキュールの製造工程の確立
□□□□農園	—	□□△△	リキュール用佐賀果試 34 号の栽培・収穫方法の確立
××技術センター（協力機関）	研究員	△△□□	酒類の製造に関する指導・助言
□□大学農学部（協力機関）	准教授	〇〇△△	かんきつの栽培に関する指導・助言
株□□リサーチ（委託機関）	未定	未定	新商品に関するマーケティング委託調査を実施

注）公設試験研究機関や大学等の協力機関、委託機関がある場合はそれも記載してください。

【主たる開発場所】

佐賀県 佐賀市〇〇町〇〇番〇〇号 〇〇〇〇株式会社内

【研究開発担当者のプロフィール】

※ 研究開発に従事する全員分について作成してください。

ふりがな ○○ ▼▼

担当者名 ○○ ▼▼

申請時の年齢 ○○歳

最終学歴 △△大学工学部応用生物工学科

職歴及び研究開発従事歴

年月	職歴及び研究開発従事歴
○年○月	○○○○株式会社入社。開発部配属
○年○月	アルコール発酵性酵母に関する研究
○年○月	開発部副主任
○年○月	高アルコール生産性酵母に関する研究
○年○月	開発部主任

注) 担当者毎に1枚作成してください。

【担当者のプロフィール】

ふりがな □□ △△

担当者名 □□ △△

申請時の年齢 ○○歳

最終学歴 □△大学農学部

職歴及び研究開発従事歴

年月	職歴及び研究開発従事歴
○年○月	□□□□農園に就業。現在に至る。

注) 担当者毎に1枚作成してください。

【担当者のプロフィール】

ふりがな □□ △△

担当者名 □□ △△

申請時の年齢 ○○歳

最終学歴 □△大学大学院工学部

職歴及び研究開発従事歴

年月	職歴及び研究開発従事歴
○年○月	○○株式会社へ入社。××技術センターに配属される。
○年○月	研究員に昇格、現在に至る。

注) 担当者毎に1枚作成してください。

【担当者のプロフィール】

ふりがな □□ △△

担当者名 □□ △△

申請時の年齢 ○○歳

最終学歴 □△大学大学院農学部

職歴及び研究開発従事歴

年月	職歴及び研究開発従事歴
○年○月	○○経済農業協同組合連合会に就職。
○年○月	営農指導員の資格を取得し、25年間、いちご・メロン・みかんなどハウス栽培の指導に従事。
○年○月	○○経済農業協同組合連合会を定年退職。
○年○月	○○大学農学部准教授に就任、現在に至る。

注) 担当者毎に1枚作成してください。

4 助成事業に係る支出計画

(単位：円)

積算内訳					助成事業に 要する経費	助成対象 経費 (A)	助成金 申請額 (B)	備考 (購入先、委託先等について 記載)
種別	仕様	単価	数量	単位				
原材料費	漬込み用 白砂糖 30kg	10,000	100	袋	(50,000) 1,050,000	1,000,000		〇〇商事(株)
原材料費	原料米 レイホウ	400	1,000	kg	(20,000) 420,000	400,000		JA〇〇
機械装置等購入費	漬込み用 タンク 2kl	450,000	2	一式	(45,000) 945,000	900,000		(株)△△
機械装置等購入費	圧搾機 HGS-01	100,000	2	式	(10,000) 210,000	200,000		(株)△△
機械装置等購入費	攪拌機 PG-020	100,000	2	台	(10,000) 210,000	200,000		(株)△△
機械装置等購入費	糖度計 APAL-1	95,200	1	台	(4,760) 99,960	95,200		(株)△△
小計					(139,760) 2,934,960	2,795,200	1,863,000	
専門家謝金	栽培・収穫技 術指導	653,400	1	式	(32,670) 686,070	653,400		〇〇大学農学部
小計					(32,670) 686,070	653,400	435,000	
職員旅費	見本市参加 旅費	60,000	3	人	(9,000) 189,000	180,000		(株)〇〇運輸
小計					(9,000) 189,000	180,000	120,000	
見本市等出展経費	小間装飾費	200,000	1	式	(10,000) 210,000	200,000		(有)□□
見本市等出展経費	パネル製作 費	20,000	2	枚	(2,000) 42,000	40,000		(有)□□
通信運搬費	見本市出展 物運送料	40,000	2	回	(4,000) 84,000	80,000		(株)〇〇運輸
印刷製本費	印刷製本費	60,000	1	式	(3,000) 63,000	60,000		(有)△△印刷
小計					(19,000) 399,000	380,000	253,000	
委託費	成分分析	4,500	10	回	(2,250) 47,250	45,000		××技術センター
ニーズ調査に関する 委託	マーケティ ング調査費	1,500,000	1	式	(75,000) 1,575,000	1,500,000		(株)□□リサーチ
小計					(77,250) 1,622,250	1,545,000	1,030,000	
合計					(277,680) 5,831,280	5,553,600	3,701,000	

注1)「種別」の欄は、交付要領別表1の「内容」の欄から記載してください。

注2)各区分の小計において、「助成対象経費(A)×助成率(2/3)≧助成金申請額(B)」
となるよう記載してください。

注3)助成金申請額の上限は500万円です。

注4)助成対象経費(A)に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、仕入に係る消
費税額及び地方消費税額として控除できる部分の金額は、減額してください。

注5)助成金申請額(B)は、各区分の小計において千円未満を切り捨ててください。

誓 約 書

私は、さが農商工連携応援基金事業の応募を行うに当たり、下記の事項について誓約します。

なお、佐賀県地域産業支援センターが必要な場合には、県を通じて佐賀県警察本部に照会することについて承諾します。

また、照会で確認された情報は、今後、私がセンターと行う他の契約等における身分確認に利用することに同意します。

記

自己又は自社の役員等が、次の各号のいずれにも該当する者ではありません。

また、次のイからキに掲げる者が、その経営に実質的に関与している法人その他の団体又は個人ではありません。

ア 暴力団（暴力団による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）

イ 暴力団員（暴力団による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）

ウ 暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者。

エ 自己、自社若しくは第三者の不正な利益を図る目的又は第三者に損害を与える目的をもって暴力団又は暴力団員を利用している者。

オ 暴力団又は暴力団員に対して資金等を提供し、又は便宜を供与する等、直接的又は積極的に暴力団の維持運営に協力し、又は関与している者。

カ 暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有している者。

キ 暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれらを利用している者。

平成 年 月 日

公益財団法人 佐賀県地域産業支援センター

理事長 吉田 哲雄 様

住 所 佐賀市〇〇町〇〇番〇〇号

(フリガナ)

氏 名 〇〇〇〇株式会社代表取締役 〇〇 〇〇 印

生年月日 (明治・大正・昭和・平成) 40年1月1日